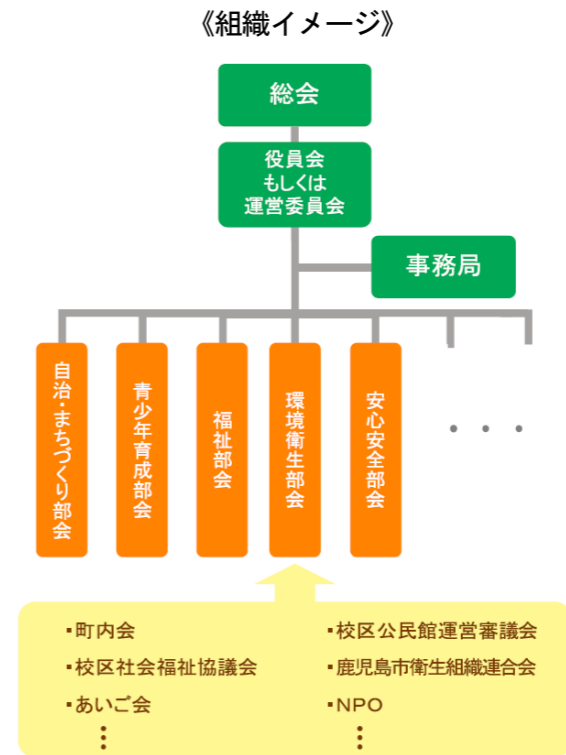
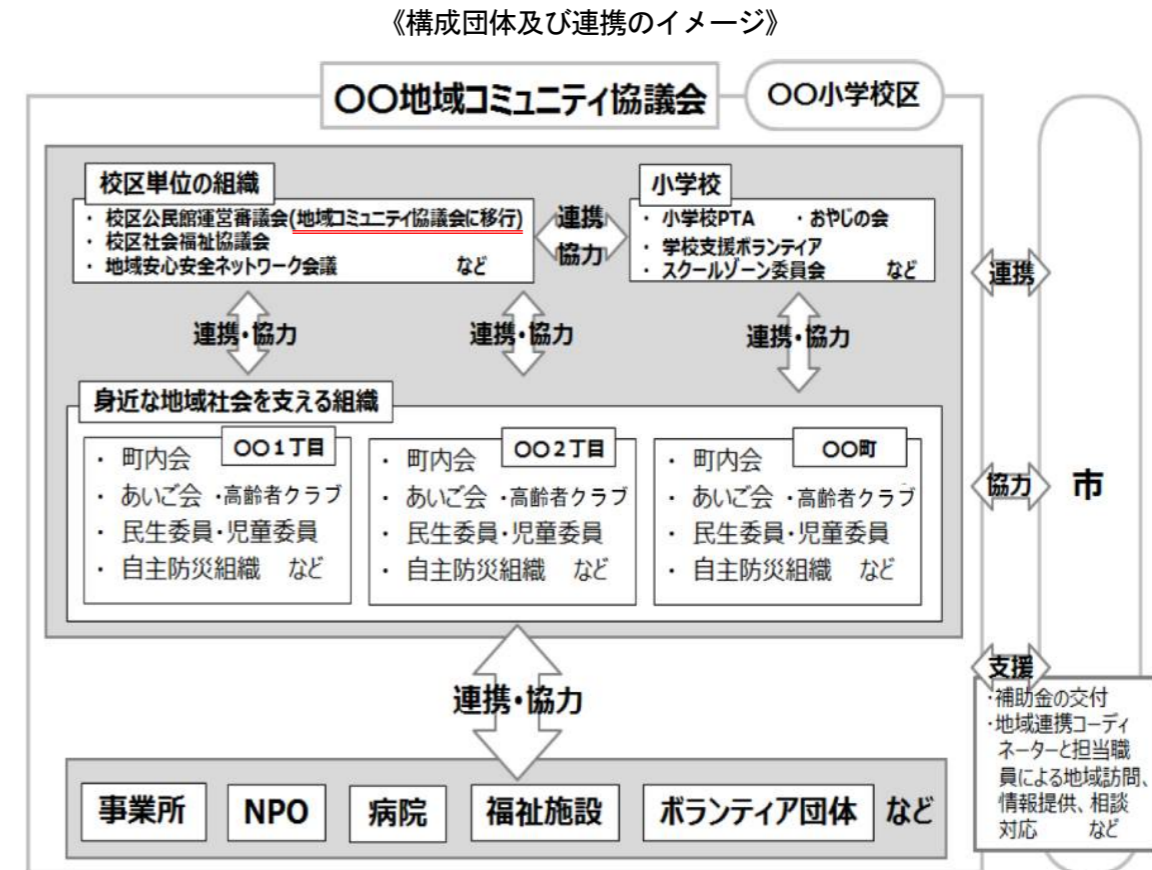


1. 地域コミュニティ協議会の設立経緯

少子高齢化や核家族化、都市化、情報化社会の進展に伴い、市民のライフスタイルや価値観が変わり、また、高度経済成長期以降の行政サービスや民間サービスの拡大を受け、地域のことは地域で解決するというコミュニティ意識の希薄化が進んだ。これらの状況を受け、鹿児島市は地域コミュニティ組織がこれまで以上に活発な活動を行えるよう、自助・共助・公助を基本として「市民との協働のまちづくり」に取り組むため、以下の経過を経て、鹿児島市内の全小学校区における「地域コミュニティ協議会」の設立を支援した。

| 年度         | 実施内容             | 概要  |
|------------|------------------|---|
| H19<br>~20 | 地域力再生検討委員会       | 地域の諸課題を住民自らが共同で解決していくという地域力の再生を目指し、市は地域団体や学識経験者を交え、地域力再生検討委員会を設置。最終報告書のなかで、「地域主体性の強化」、「意識改革」、「行政の支援」を3本柱とする方策について提言を受ける。                            |
| H22        | コミュニティビジョンの策定    | 委員会から提言を受けた方策を踏まえ、市は地域コミュニティの目指すべき将来像やその実現に向けた取組みの基本的な方向性を示す指針としてコミュニティビジョンを策定した。   |
| H24        | モデル事業の実施         | ビジョンの実現に向け、既存の地域団体が集う場として新たな地域コミュニティ連携組織（地域コミュニティ協議会）の立ち上げを推進するため、中名、八幡、平川の3校区でモデル校区を設立。<br>市は並行してコミュニティビジョン推進戦略会議を開催し、モデル事業の評価・検証と支援施策の協議・検討を実施した。 |
| H27        | 市内全域での設立支援を開始    | 既に各小学校区に設立されていた生涯学習等の推進に取り組む校区公民館運営審議会を母体として、地域コミュニティ協議会の設立が本格的にスタート。<br>地域連携コーディネーターを派遣し、各校区で説明会やワークショップ等を実施した。                                    |
| R2         | 全小学校区（79校区）で設立完了 | H27年以降、順次設立され、R2年度に全ての校区で設立された。設立後、各協議会は地域の課題解決や資源活用など、自分たちのまちづくりに取り組んでいくため、1期5年を計画期間とする「地域コミュニティプラン」をそれぞれ策定して活動しており、現在多くの協議会が2期プランへの更新時期を迎えている。    |

2. 地域コミュニティ協議会の組織及び連携のイメージ



### 3. 協議会の具体的な取組み

| 活動分野          | 一般的な活動             | 特色ある活動  |
|---------------|--------------------|---|
| まちづくり<br>親睦交流 | 夏祭、運動会、スポーツ大会、おはら祭 | 史跡めぐり(山下、城南)、星空コンサート(清和)、特産品の加工・販売(郡山、東桜島、平川)、ゆるキャラ作成(谷山)、カヌー大会(城南) |
| 文化            | 校区文化祭、各種講座、伝統芸能の継承 | 得意技展示会(平川)、ふるさと歴史講座(八幡)   |
| 環境美化          | 校区内清掃イベント、緑化活動     | 休耕田の活用(生見、中名、犬迫)、競技形式ゴミ拾い大会(紫原)                                     |
| 防災            | 消防訓練、防災訓練          | (大学連携)大規模噴火ワークショップ(八幡)  |
| 安心安全・防犯       | 暗がり点検、防犯パトロール、安全指導 | 防犯カメラの設置(八幡、宇宿、武岡)、空き家調査(桜峰、郡山)                                     |
| 健康・福祉         | 近隣見守り、グラウンドゴルフ大会   | 高齢者サロン(中名、和田、武岡台)、城山登山(山下)  |
| 青少年健全育成       | あいさつ運動、立志式、青少年育成大会 | 農業体験(伊敷台、宮)、留学生交流会(八幡、福平)   |
| 社会教育・生涯学習     | 成人学級、女性学級          | 校区成人式(喜入地域)、オリジナル菓子の発信(草牟田)   |

### 4. 構成団体の状況

- (1) 構成団体数 : 10~121 団体 (平均 45 団体/協議会)
- (2) 主な参加団体 : 町内会 (参加率 97%)、社会福祉協議会、あいご会、高齢者クラブ、民生委員、幼稚園・保育園、小・中学校、PTA、おやじの会、安心安全ネットワーク会議、警察・消防、医療福祉関連事業者など
- (3) 実施事業数 : 17~61 事業 (平均 33 事業/協議会)

### 5. 行政の支援 (R4年度現在)

- (1) 地域連携コーディネーターの派遣  
10名 支援内容【他協議会の取組みに関する情報提供、プラン策定の支援、役員会への出席】
- (2) 必要な情報の共有  
協議会の代表者を対象に、市からの施策説明や、協議会同士の情報交換等を目的とした会議を開催
- (3) 活動拠点の整備  
校区公民館を地域コミュニティ協議会の活動拠点施設として確保
- (4) 補助金

| 事業名             | 補助額  | 概要                            |
|-----------------|--|-------------------------------|
| 組織運営支援補助        | 77.5 万円/年 (補助率 10/10)  | 役員や事務局職員の人件費への補助              |
| 地域活性化に向けた協働事業補助 | ・基礎額: 50 万~80 万円 (補助率 10/10)<br>・加算額: 50 万円 (補助率 1/2)<br>・コミュニティプラン更新: 15 万円 (補助率 10/10) | 協議会の基盤づくりや事業実施に伴う費用を世帯数に応じて補助 |

### 6. 課題

#### (1) 事業の見直し

##### 【考えられる課題】

- ・事業の固定化  
事業が協議会設立前から殆ど変わらない。
- ・連携の停滞  
情報は共有されるが、構成団体の連携が進まない。

##### 【参考】プランの更新状況 (計画期間: 5年)

- 1期: 56 協議会 (うち 27 協議会が R4 年度更新)  
2期: 23 協議会

#### (2) 運営の見直し・効率 (DX) 化

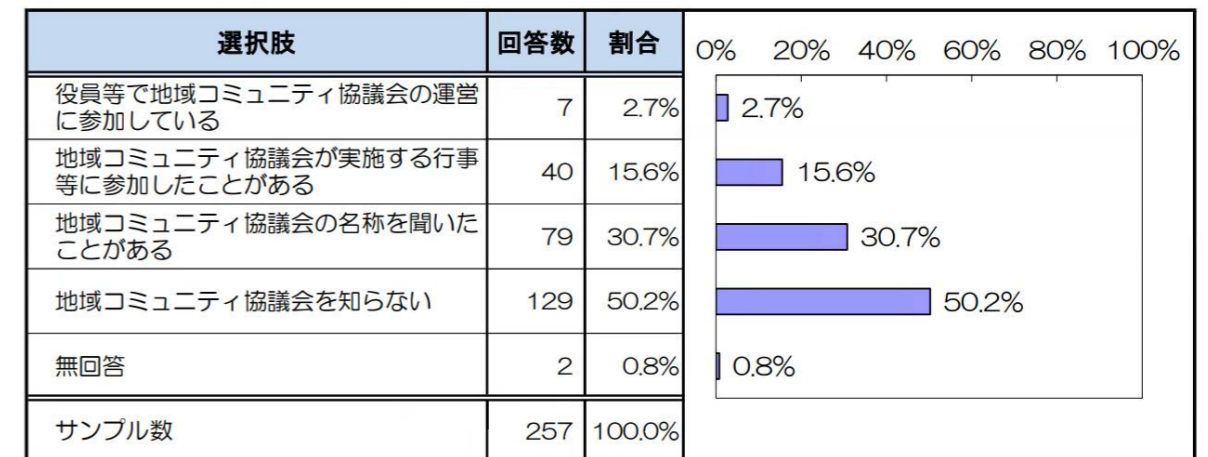
##### 【考えられる課題】

- ・担い手不足  
共働き世帯の増加や定年延長などの影響で、65 歳以上が主な担い手となっており、現役世代の参画が少ない。
- ・情報の見える化  
ア) 地域住民への広報周知は紙媒体による掲示や回覧が中心  
イ) 構成団体に関する情報 (得意なこと、悩んでいること) が見える化できていない。

#### (3) 地域コミュニティ協議会の認知度向上及び住民参画の促進

##### 【考えられる課題】

市民を対象とした令和3年度のアンケート調査では、地域住民の約半数が協議会について認知しており、「行事に参加したことがある」と回答した方は約 16%であった。



【R3年度に実施したアンケート調査をもとに、地域づくり推進課が作成 (n=257)】

#### 【プランの策定~更新のイメージ】

